

小鹿野町役場庁舎建設基本構想

令和元年 8 月

小鹿野町

はじめに

平成23年3月の東日本大震災及び平成28年4月の熊本地震では、多くの自治体の庁舎が被害を受け、災害時に司令塔となる庁舎の耐震対策の重要性が改めて認識されたところです。

町ではこれまで、多くの方が使用する施設の耐震化を優先して推進し、小中学校等の学校施設や小鹿野中央病院の耐震化を進めてきました。

小鹿野庁舎については、平成23年に耐震診断を実施した結果、コンクリート強度が低く、建物全体の劣化も著しいことから、震度6強以上の地震が発生した場合、倒壊または崩壊する危険性があると判定されましたが、他の公共施設の耐震化を優先したことや、コンクリートが劣化していることにより、耐震対策をしても十分な効果を得られるか不明なため、耐震対策を実施せずに現在に至っています。このため、震災等で即応すべき時に、庁舎の直接的被害により行政機能そのものが損壊し、災害対策が機能不全に陥る事態が想定されます。

このような状況を踏まえ、役場庁舎の今後の在り方について、町民の皆様からご意見をお聴きするため、平成28年10月に町内の各種団体代表者、識見を有する者、公募による委員を含めた19名による「小鹿野町役場庁舎検討委員会」を設置し、検討を重ね、平成29年8月に、庁舎整備の方向性を示す小鹿野町役場庁舎検討委員会報告書が町長へ答申されました。

この答申を受け、平成29年11月に職員による「小鹿野町役場庁舎建設委員会」を設置し、先進地視察や協議を重ね、平成30年4月に「役場庁舎整備の基本的な考え方」を策定し、町政懇談会、住民説明会や町民主体のワークショップを開催し、町民の皆様からご意見をいただきました。

この度、町民の皆様からいただいたご意見を参考にしながら、小鹿野町役場庁舎建設基本構想を策定しました。

この基本構想による考え方を基本とし、これからの中の本町のまちづくりの中心となっていく若い世代をはじめ、より多くの皆様のご意見・ご提案をいただきながら、役場庁舎の整備に取り組んでまいります。

令和元年8月

小鹿野町長 森 真太郎

目 次

第1章 役場庁舎整備の必要性

1 役場庁舎の現状と課題	1
1-1 小鹿野庁舎の耐震性	1
1-2 現状と課題	1
2 役場庁舎整備の必要性	4
3 検討経緯	5

第2章 役場庁舎整備とまちづくり

1 役場庁舎整備とまちづくり	6
----------------	---

第3章 基本構想の策定

1 役場庁舎の基本理念及び基本方針	9
2 求められる機能	11
2-1 町民ワークショップ	11
2-2 役場庁舎に求められる機能	12
3 建設場所	14
3-1 建設場所	14
3-2 候補地の現況	14
3-3 建設場所の検討	15
4 役場庁舎の規模	22
4-1 規模	22
4-2 規模の検討	23
5 役場庁舎の構造	26
6 財源について	27
7 事業手法	28
7-1 事業手法	28
7-2 設計者の選定方法	29
8 事業スケジュール	30
参考資料	31